

26PA-am003

ミシマサイコ組織培養クローン苗の圃場栽培

○乾 貴幸¹, 山本 豊², 中川 綾子², 川西 史明², 河野 徳昭¹, 川原 信夫¹, 吉松 嘉代¹
(¹医薬健康薬研・薬植セ, ²株式会社 栃本天海堂)

【目的】生薬原料の供給は輸入に強く依存しているが、近年の輸入価格の上昇等に伴い、国産化の機運が高まりつつある。しかし、国内生産実現のためには、高品質な種苗の安定供給が大きな課題の一つである。そこで、我々は、種々の薬用植物について、形質の安定した苗の供給を可能とする組織培養技術を用いた苗生産系の検討を行っており、昨年度大会では、消炎、解熱を目的に用いられる柴胡の基原植物、ミシマサイコ (*Bupleurum falcatum* Linné; Bf) のクローン苗の作出を報告した¹⁾。本年度は、作出した Bf クローン苗の圃場栽培結果について報告する。

【方法及び結果】組織培養技術を用いて、奈良県産 Bf 種子より誘導、増殖したクローン苗 2 種 (BfN07、BfN09) を閉鎖温室内で馴化後、京都府福知山市内の圃場に定植し、栽培を行った。約 16 ヶ月間 (2015/7/22~2016/11/17) 栽培した BfN07 の 2 年生根、及び、約 7.5 ヶ月間 (2016/4/6~2016/11/17) 栽培した BfN07、BfN09 の 1 年生根を収穫し、実生由来の 1、2 年生根とその生育を比較した。その結果、実生苗では、主に主根が成長する個体が多いのに対し、培養苗は、いずれのクローンも、側根がよく発達しており、特に BfN07 では、培養時の不定根由来と考えられる根が多数成長していた。そのため、培養苗は、実生苗と比較し、栽培 1 年目で既に新鮮重が大きく増加しており、根収量の増加が期待された。現在、収穫根の品質評価のため、成分分析等を進めているところである。

【謝辞】本研究は、日本医療研究開発機構研究費 (創薬基盤推進研究事業)「安心・安全・高品質な漢方薬原料生薬の持続的利用を指向した薬用植物バイオナーサリーの構築とブランド生薬の開発に関する研究」の一環として行った。

¹⁾ 乾貴幸ら、日本薬学会 第 136 回年会 (横浜) 講演要旨集